

平成17年11月24日

第184回『21世紀塾』参考資料

(第19回提言)

「伊豆1週間連泊プロジェクト」の立ち上げを

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

【問題提起】

「観光・伊豆」の悲願は、何と言っても、さまざまな魅力を持つ伊豆に、連泊・長逗留してほしいということだろう。

そのため、通常は1泊2日となっている「駆け足旅行」を、「せめてもう1～2泊」と懇望されているが、うまくいっていない。

中には、ファルマバレー構想の先駆として、温泉旅館に連泊して療養する「5日間コース」という稀な例もあるが、一般的には、「1泊2日」の旅程を、何とか連泊にできないか、と模索されているのが現状だ。

しかし、私は、現在の伊豆の苦境を救うためには、そういった「1泊2日から2泊3日」への「積み上げ方式」の思考・発想ではなく、逆にこれからの伊豆は、「1週間連泊プロジェクト」の立ち上げ・「1週間連泊プラン」の立案から取り組み始めるべきだと考える。

なぜなら、そうすることによって、初めて、今まで見えなかったものが見えてくるだろうし、何が欠けているか見えてくるに違いない、と思うからだ。

つまり「1週間連泊プラン」となれば、宿泊施設だけでこれを考えられるわけがなく、地域全体を巻き込んだ戦略を取らざるを得ない。

例えば、1週間という長い期間を、来訪者に、どういうルートで動き回り、どこで、どうやって、安全・安心に、ゆっくりとくつろいで、楽しんでもらうか、伊豆全体をエリアとして、必死に考えざるを得ないのだ。



「伊豆1週間プロジェクト」の起点としての役割が期待される三島駅



箱根の坂地区で行われるダイコン祭りも年々賑やかになってきている

こういうと、「現代人は気ぜわし過ぎて、連泊など、とても、とても」といわれそうだが、そういう時代だからこそ「いやし」が脚光を浴びているんだし、そもそもかつての湯治場では、その名の通り、10日や20日の湯治など普通だったというし、それこそ海外の高名なリゾート地では、1週間どころか1ヶ月の長逗留もあると聞いている。

連続休暇など当たり前の国の話したと言われればそれまでだが、米国の砂漠のど真ん中のアリゾナ州のフェニックスのように、宿泊客のために、いつもどこかでパーティーが開かれているとか、ドイツの保養地・ウイスパーバーデンのように、温泉だけでなく、カジノや、女性が心を込めて歓待する施設があるなど、長逗留客に、いかに当地を退屈しないで楽しんでもらうかには、地域をあげた「もてなし心」と、知恵を使った「企画力」がいる。

一口に「企画力」と言っても、なかなか難しいことだが、幸いなことには、長逗留していただく分、時間をかけて楽しんでもらうことができるんだし、当地にはそれを可能にする恵まれた自然環境や歴史がある。

例えば、従来の駆け足の観光地めぐりといったものから、体験型の「牛乳搾り」や「山菜採り」、多少力が余っているというのなら「塩作り」や「ダイコン引き」が、もう少し骨っぽくが望みなら「植林・間伐」といったボランティア体験もできる。

練習時間がとれば、かなりうまくなって楽しめる「水上スキー」や、「ジェットスキー」、又、健脚向きには、伊豆一周、天城縦走サイクリングもお薦めだ。

歴史・文学探訪に興味がある方にならなら、井上靖の事跡や、「伊豆の踊り子」のコースを、同じように、時間をかけて歩いてもらうこともできる。

雨の日の対策として、実用的に、竹の産地を生かした「和傘作り・和傘への文字書き」体験のような



伊豆市やNPOが企画した間伐体験ツアー
(05.11.1静岡新聞朝刊)



「踊り子歩道」沿いに乱れ咲くシャクナゲ



ジェットスキーが楽しめる戸田



雨の日には和傘をさす巫女さんが見られる
三嶋大社

ものもできないか、も課題としてある。

そうした「じっくりと腰を落ち着けて伊豆を楽しもう」という来訪者の為に、それこそ破格値で、バス・電車の1週間乗り放題の「フリーキップ」を出せないだろうか。

これを利用してくれさえすれば、どこかで寄り道や、買い物をしていただけるだろうから、バス・電車の会社も、地域も潤うだろうし、逆に、利用されなければ実損は生じない。

美術館もそうだ。

三嶋大社宝物館・佐野美術館・MOA美術館・起雲閣・池田20世紀美術館・東海館等々を、「割り引き券」などとケチなことを言わずに、2,000円も出せばどこにでも1週間入り放題の「フリーキップ」を出そう。

全部を回った人には、記念品も付けてやろう。

それなら、あちらの館にも、こちらの館にも入らなきゃ損だと、欲も出るだろう。

伊豆には、こうした利用できる素材はゴロゴロあるのだから、もっともっとこれを磨いて、足りなければ創って！、来訪者を満足させるプランを創ろう、創ったことを知らせよう。



伊豆の象徴としての「伊豆ナンバー」の創設も秒読みになっている。

今こそ、伊豆の我々が手をつなごう。

法人会や、建設業協会のような、伊豆の中の広域的組織が中心になり、伊豆一円をネットして、「1週間連泊プロジェクト」を立ち上げよう。

この地域だけで足りなければ、もう少し地域を広げて、「富士・箱根・伊豆」ネットを使ってでも、「1週間連泊プロジェクト」を立ち上げよう。

――それが、これからの「世界！ 観光・サービス競争」を生き抜く絶対条件であると確信する。



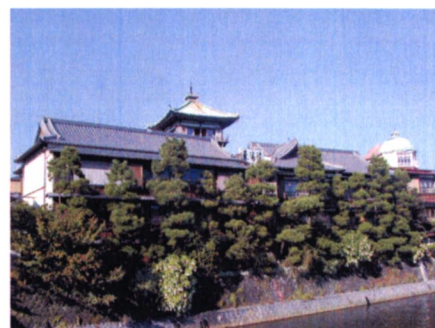
1週間フリーキップが望まれる伊豆地区の足



回遊式庭園や登録文化財「隆泉苑」を併せ持つ佐野美術館



文化観光の拠点として熱海市が取得した起雲閣



文化観光の拠点として伊東市が取得した東海館